

## 『光る君へ1 1』

今はただ 思い絶えなむ とばかりを 人づてならで 言うよしもがな

さきょうだいふみちまさ  
左京大夫道雅

### 【現代訳】

今となってはあなたへの想いをあきらめてしまおう、ということだけを、人づてにではなく（あなたに直接逢って）言いたいのだが

作者の藤原道雅は内大臣藤原伊周（儀同三司）の息子で、中関白藤原道隆と高階貴子（儀同三司の母）の孫です。

三条院の皇女である当子内親王は伊勢の斎宮で任を終えて京都に戻りました。その当子内親王は伊勢の斎宮で任を終えて京都に戻りました。その当子内親王に道雅がひそかに通うようになり、そのことが三条院の耳にもはいり激怒されます。任を終えたとは言え、神に仕える巫女の恋愛は許されるものではありません。無理やり仲をさかれて別れさせられ、その時に作った歌がこの歌です。

道雅は敦明親王雑色長を暴行し重傷を負わせる等の悪行が絶えませんでした。後に、法師隆範を使って花山院女王を殺した疑いもかけられています。このようなことから「悪三位」とよばれていますが、道雅の生い立ちを考えると上手くいかない人生への腹いせだったのかもしれないですね。

山陽小野田かるた協会 小田 広行